



社会福祉法人大山  
奥山裕子理事

# 向精神薬ゼロ 実現

## 医師の理解・取組継続が鍵

社会福祉法人大山（千葉県佐倉市）が運営する特別養護老人ホームと  
きわの杜では、嘱託医と協力して入居者に投与される向精神薬をゼ  
ロにする取り組みを実施している。同ホームの施設長である奥山裕子  
理事に話を聞いた。

——向精神薬使用ゼロ  
を目指すことになった  
きっかけは。  
奥山 入居者に対して  
自然なものを口にさせ

また、私は他業種か  
ら介護職に転身したこ  
ともあり、当初は入居  
者に下剤が多用されて  
いることに驚いた。  
食事の工夫などで下  
剤の量を減らした経験  
と、薬の知識を深める  
中で向精神薬の依存性  
などの悪影響を知った  
ことで、これらを無く  
せないかと考えた。

——実現に向けた取り  
組みは。  
奥山 まず、考えが合  
う嘱託医を探すところ  
から始めた。2013  
年に当時の嘱託医に、  
向精神薬を服薬してい  
てその量を減らせよう  
な入居者について減薬  
を相談したところ、医  
師から「入居時に投与  
されている薬をベース  
に、必要があれば薬を  
上乗せしたり減らした  
りすることが基本方針  
だとの反対にあった。

法人内の食育指導士  
が私の考えに賛同して  
いたこと、この医師に  
対しては向精神薬に対  
する考え方をきっかけ  
に法人との考え方の違  
いがほかにも生まれ始  
めていたことが理事会  
で話題になり、嘱託医  
を変更することになっ  
た。後任探しには苦慮  
したが、漢方薬などを  
積極的に取り入れる現  
在の嘱託医とサプリメント  
を使った栄養補給  
などの代替治療で徐々  
に向精神薬を減らして  
いった。

——苦労したことは。  
奥山 まず、看護師の  
反対が大きかった。夜  
間対応などの面で、前  
任医師の評判が高かつ  
たことに加え、減薬・  
断薬についても納得で  
きなかったようで嘱託  
医の交代に伴い全看護  
師が離職してしまっ  
た。また、断薬時には  
食事摂取が進まなくな  
ったり活動的でなくな  
ったりするなど離脱症  
状がみられることもあ  
った。

——現在の体制は。  
奥山 向精神薬を使わ  
ない方針を、入居希望  
者にも予め伝え、同意  
をとって受け入れてい  
る。入居時に向精神薬  
を服薬しているも3ヵ  
月程度で断薬する。入  
居者の家族には前向き  
に受け入れられてい  
る。また、現在の介護  
看護職員も体制に理解  
を示している。  
重度の要介護者は今  
後も増えていくが、水  
分量・食事量・正しい  
姿勢の指導などを通じ  
てそれ以上状態を悪化  
させず、入居者が入院  
する前に特養でできる  
ことに取り組んでいき  
たい。

### 高齢者住宅新聞

(3) 2016. 9. 21 (毎週水曜日発行)